

部局名：

附属図書館

部局長名：

鶴田 健二

目 標		目標に対する達成状況（成果）及び新たに生じた課題等
①教育領域		
	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
	(12-1) (15-1)	●来館者への学修サポートとして図書館利用方法の案内や文献検索に係る講習会等を計53回（中央館38回、鹿田12回、植物研3回）開催し、延べ1,553人（中央館864人、鹿田543人、植物研146人）が参加した。また、講習会のスケジュールをHPに掲載し、これらをオンデマンドでも利用できるようMoodle上で動画コンテンツを公開した。デジタルライブラリーによる学修サポートとして、今年度は12本（中央館11、鹿田1）の動画を新規作成して計34本（中央館29本、鹿田3本、植物研2本）の動画コンテンツを提供（前年度より8本増）し、892回（4～2月、中央館830回、鹿田35回、植物研27回）のアクセスがあった。ディスカバリーサービス「OU OneSearch」について、オンライン講習会を開催し、Moodleで動画の公開を行った。新規に初心者向けAI活用講習会(44名)とPython講習会(5名)を実施し、早期に定員に達するほど高い関心を得た。また、中央図書館と鹿田分館に視覚障がい者用の補助器具として拡大読書器とリーディングトラッカーを導入した。学生・館長懇談会を今年度も開催し、重要なステークホルダーである学生と館長が直接対話する機会を確保した。 ●今年度も4.6%係数による予算減や開館時間維持のため、資料費が厳しい状況となったが、資料費の確保に努めた。非来館型利用の利便性を鑑み、可能な限り電子書籍を購入し、451点をあらたに整備した。 ●探究班教員の協力を得て、令和7年度新設の初年次全学必修科目「知の探研」moodle「第1条「関心を寄せる」(図書館)」に動画2本と図書館ガイダンス理解度テストを提供した。英語科目WG教員の協力を得て、昨年度に引き続き多文化共修事業予算を獲得し、冊子電子双方の語学資料等整備を進めた。また、英語多読をテーマとする知好楽セミナー実施や学生向けワークショップ共催、多文化共修事業による語学資料整備、図書館ウェブサイトへの多読紹介ページ設置等を行った。
②研究領域		
	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
※研究領域での課題を踏まえて、本年度の目標について、5項目以内で、端的に、箇条書きでご記入ください。		
③社会貢献（診療を含む）領域		
	関連する 中期計画の番号	社会貢献（診療を含む）領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
	(12-1) (15-1)	●学内教職員等および学外の関係者・機関等と連携協力し、池田家文庫絵図展1,392人（10～11月）、知好楽セミナー（10月、12月）、池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ（6月、2月）、中央図書館および分館での館内展示企画(23企画)を実施開催し、図書館利用者の交流促進を図った。また、イノベーション・commons機能の強化およびSDの観点から、公開講座のテーマを「新しい潮流 図書館が人びとの居場所や対話、活動の場になってきた」として開催し（11月、学内外から102人参加）、公共知共創オフィス教員も登壇して職員と共に図書館・公共知共創機構の今後のあり方を考える機会とした。参加者からも図書館の概念が変わったという感想を得るなど、学内外にインパクトを与えた。 機構化以降の活動として、SDGsアンバサダーと連携して、「岡山EXPOラボ2025ー次世代と創る地域の未来ー」を開催し、学内関係者や地域住民の多数の参加があった。また、おかやま未来共創プロジェクトでは、人口減少問題の解決の一手となるよう、選ばれる岡山の実現に向けたアイデアを盛り込んだボードゲームの作成を進めており、高校生を対象とした関連のワークショップを図書館で開催するなど、地域の持続可能な発展に向けた取組を実践している。 ●転換契約によるオープンアクセス出版枠（令和7年度契約分）で、本学研究者の学術論文255報がOA出版された（3月末実績）。令和8年度の転換契約では、計364報のOA出版枠（令和8年度契約分）を確保した。本学貴重資料のデジタル化については、昨年度末に整備した電子化スタジオの機器を活用し、職員による内製で池田家文庫マイクロフィルム365リールのデジタルコンバートを実施したほか、昨年度に引き続き、東京大学史料編纂所のデータベース「FII-CAT Plus」で池田家文庫史料デジタル画像約700点の追加公開（3月）を実施した。今後もデジタル化および公開を推進する。
④管理運営領域		
	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
	(12-1)	●図書館・公共知共創機構の組織・体制について関連部署と検討を進め同機構の設置を行った。設置後は、各種規程類の整備を行うとともに、予算を確保し共創推進グループの移転を行った。 また、学内と社会との連携に長く関わりながら実践を重ねてきた教員を迎え、図書館内に「公共知共創オフィス」を設置し、本学の「公共知」を推進する拠点として、教職員の協働を進めている。機構及びオフィスのウェブサイトを整備し、教員の活動内容を積極的に発信することで、学内外とのつながりをさらに深めていく取組を進めている。 ●岡山大学内部質保証体制のもと、図書館運営委員会にて、自己点検・評価を行った。「注意が必要」となった貸出冊数や電子書籍閲覧回数については、利用促進の広報に加えて、利用者アンケートにより学生ニーズの把握を行うとともに、蔵書構成、購入データ、貸出等のデータを使い適切な学生資料の提供を行うため分析を行った。 ●館内巡視員や防災訓練等を行い、職員の意識向上や安全衛生体制の整備を図った。また、中央図書館で故障した防犯カメラの更新を行い館内の防犯環境を整備した。 ●効率的な業務遂行のため、紙の申請書やアンケートをFormsに置き換えることで、業務のDX化を推進した。また、グループ学修室等の予約をWeb上で行うことができるアプリを職員がPower Appsにより開発し、運用を開始した。また、他部署に先駆けオンプレ環境に構築した生成AIを会議資料や議事録の作成に活用した。これにより業務効率が向上し、余力が生まれたことで、アプリの機能向上など発展的な業務に取り組んでいる。
⑤センター・機構等業務		
	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(12-1) (15-1)	●学内関連部署からなるOA推進ユニットを設置し、図書館が支援部局となってOAを推進した。関連講習会に参加しユニットメンバーの知識を深めたほか、科研費説明会と鹿田地区の教授会で即時OAについての説明を行った。また、前年度に続きAPC支援制度を継続し4月からのTop10%ジャーナルへの支援や11月からQ1ジャーナルへの支援拡大を行った。このほか、業務達成基準適用業務予算を獲得し第4期中の継続した支援環境を整えた。 ●出版社との交渉および契約を着実に遂行し、電子ジャーナルの安定的な提供を行った。令和7年度よりElsevier社について5分野のサブジェクトコレクションへ拡大するとともに転換契約へ変更することで無料で利用できる論文と転換契約枠の拡大を行ったほか、生成AIを活用した論文検索等を可能にするWeb of Science Research Assistantの契約を開始した。また、学術出版社との集団交渉体制構築に向けた準備会と幹事会に副座長として参加するとともにWGに参加し、全国の電子ジャーナル転換契約のより良い交渉体制の取りまとめに貢献した。 ●学内外の学術コンテンツを統合的に検索できるサービスとして導入したディスカバリーサービス「OU OneSearch」について、授業と連携した講習会の開催により利用拡大に係る取組みを実施した。講習会受講者と一般利用者へのアンケートおよび「知の探研」受講学生を対象とする授業活用アンケートを実施し、より効果的な広報や講習会実施時期を検討した。また、職員の発案によりAI機能の追加や外部データベースとの連携を行い、利便性を向上させた。

注1）本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2） 自己評価による達成度（5～1）は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。